



“よねやま”から広がる新しい世界 ④

信頼が築く交流と未来



米沢 R C
(第 2800 地区 山形県)

カウンセラー
秋葉 隆子 さん

可能性を信じて応援

エンフボルド・ボロトヤさんは、私がお世話した 2 人目の米山奨学生です。カウンセラーを務めるのは久しぶりで、少し心配でしたが、彼女はとてもしっかりしていて明るい方で、お会いして安心したのを覚えています。

とはいえ、何事もなかったわけではなく、彼女の場合は非常に優秀な学生でしたので、米山奨学生になって間もなく、アメリカの大学への短期交換留学生に選ばれることになりました。ところが、4 か月ほどの留学期間中は奨学金が中断することがわかり、経済的に「行きたいけど、行けない」というジレンマを抱えて、しばらく悩んでいました。相談に乗る中で、私も彼女の可能性を信じ、できることなら行かせてあげたいと思いましたので、少しの間、個人的に支援させていただき、「頑張って行ってらっしゃい」と、送り出しました。

もっと交流を深めたいと思っていた時期に、しばらく来られなくなって、正直、寂しく残念に思う気持ちもありましたが、ボロトヤさんは期待に応えて、一回りも二回りも大きくなって帰ってきてくれましたので、その成長を心からうれしく思いました。

受け入れて得られる新しいきっかけ

実際、ボロトヤさんは留学や学業で忙しい中で、クラブとの交流など、よくやってくれたと思います。

米沢ロータリークラブ (RC) はほぼ毎年、世話クラブを引き受けていますので、米山奨学生は珍しい存在ではありませんが、毎回どの奨学生からも、受け入れる私

たちの側に、あらためて考えさせられることや、新しく得られることへのきっかけがあるような気がします。その経験を次に生かして、より良い交流につなげていくのが、この事業を続けていく意義ではないか、と私は思います。

ボロトヤさんとの出会いによって、私を含めてクラブの会員は皆、モンゴルという国を身近に感じるようになりました。そういうきっかけは、とても大切だと思いますし、いい意味で広がっていければと思います。

カウンセラーのやりがいを実感

昨年の当地区の地区大会の前日、ボロトヤさんは来日中の忙しいスケジュールを縫って、米沢 R C の芋煮会に駆けつけてくれました。久しぶりの再会を喜び、二人で話に花を咲かせたのですが、仕事やロータリーの活動に一生懸命頑張っている様子をうかがい、彼女の成長に、あらためてカウンセラーとしてのやりがいを実感しました。ロータリーに入会して 20 年以上になりますが、その中でボロトヤさんのような人に巡り合えて、本当に良かったと思っています。

彼女が奨学期間を終え、帰国のために山形を離れる時、「結婚式には絶対に行くからね」と約束しました。自分の年齢のことでもありますので、果たして行けるかどうか分かりませんが (笑)、実現することを願っています。



米沢 R C の芋煮会で仲良く「はい、チーズ」

モンゴルの米山学友エンフボルド・ボロルトヤさんは昨秋、米山学友の里帰り制度「米山学友ホームカミング」で来日。第 2800 地区（山形県）の地区大会でスピーチを行い、各所を回ってロータリアンと交流しました。現在、在モンゴル日本国大使館で働く傍ら、ローターアクトクラブや米山学友会の中心メンバーとしても活躍するボロルトヤさんと、奨学生の時から彼女の将来を信じ、応援してきたカウンセラーの秋葉隆子さんにお話を伺いました。



米山学友
エンフボルド・ボロルトヤさん

出身：モンゴル
奨学期間：2010 - 12
学校名：山形大学

山形の人々に支えられて

私は新モンゴル高校の 5 期生です。この学校は元米山奨学生のジャンチブ・ガルバドラッハ先生が設立した日本式高校で、多くの卒業生が日本に留学しています。私は同校から山形大学に留学した初の生徒ですが、山形大学出身のジャンチブ先生から「田舎である」「雪がすごい」、そして「人が良い」と山形について聞かされていました。来てみると、全くその通りでした。

山形の皆さんは、娘や孫のように接し、私の面倒を見てくれました。米山奨学生になってからは、米沢 RC の皆さん、特にカウンセラーの秋葉さんに大変お世話になりました。大学の推薦で短期アメリカ留学の機会を得た時も、秋葉さんの応援のおかげで実現し、素晴らしい経験ができました。時々、秋葉さんのお店にお邪魔して、お茶をいただきながら話したこと、今後の人生や、女性としての生き方にアドバイスをくれた

ことなど、すべてが心に残っています。

モンゴルと日本の懸け橋に

現在は在モンゴル日本国大使館に勤務し、広報・文化・学術活動を担当しています。国費留学試験を実施し、モンゴルの学生を日本の大学に送るなど、両国の懸け橋となる仕事に、大きなやりがいを感じています。

母国では、ローターアクターとしても活動しています。所属するツェツェグンローターアクトクラブでは、大学生への奨学事業を始め、寄付金を集めるためのイベントを開くなど、高い志を持つ若者同士、楽しく社会に貢献しています。また、昨年 3 月には待望のモンゴル米山学友会が誕生し、私も役員として関わりながら、少しずつ活動を広げています。

今の私が形成され、充実した人生が送れているのは日本のおかげです。今後は両国間での人と人との相互理解を深め、世界のモデルとなる良い関係を築き、平和につなげていくこと、それがこれからの私の夢です。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

E メール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



感謝の気持ちとともに —— 台湾米山学友会総会開催 ——

台湾米山学友会(中華民国扶輪米山会)の総会が12月13日、台北市内で開かれ、台湾学友ら約 80 人のほか、日本各地のロータリアンや学友が多数参加。韓国学友会からも全炳台会長らジョンピョンテが参加し、約 130 人が集う盛会となりました。総会では 2014 年春に「旭日中綬章」の叙勲を受けた米山学友・廖一久氏リョウイクキウ（『友』2014 年 7 月号横組み P42 参照）が登壇し受章の喜びとエビ養殖の研究にかけた半生を語り、学友会を代表して林維宏理事長からトロフィーが贈られました。また、昨年、米山記念奨学会理事長を退任した板橋敏雄名誉理事長にも感謝の品が贈呈されました。総会には毎年、多くの学友が日本への感謝の気持ちとともに集まっています。



トロフィーを受け取る廖一久氏(左)